

■ 現状と課題

- ・ 少子高齢化の進展とともに、福祉を取り巻く環境が大きく変化し、福祉課題も多様化・複雑化しています。福祉サービスに対するニーズも急増しています。
- ・ 今後、福祉サービスを必要とする人が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、個々の課題に適切に対応していくためには、担い手の確保と、より専門性の高い福祉人材の育成が重要な課題です。
- ・ 子どもから退職後のシニア世代まで幅広く、福祉の仕事に関心・興味を持てるような取り組みを行っていく必要があります。

■ 地域での取り組み

- ・ 新たな福祉従事者を育成するため、各施設・法人で社会福祉士等の資格実習生の受け入れを積極的に行っていきます。
- ・ 地域の団体は、住民が福祉に関心を持ち、退職後など社会貢献として地域に役立ちたいと思えるような講座や講演会を企画・実施します。
- ・ 地域の団体や施設は、小学生・中学生・高校生等の体験学習（職場体験）を積極的に受け入れ、早い段階から福祉の仕事に興味関心を持てるきっかけを作ります。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・ 社会福祉士・精神保健福祉士・司法修習生等の実習や学校課題のボランティアを積極的に受け入れます。また、区内の事業所と実習受け入れ担当者の連絡会を開催し、実習受け入れ体制の強化を図ります。
- ・ ねりま社会福祉法人等のネットでは、福祉のやりがいや楽しさを伝えるなど福祉教育に取り組めます。
- ・ 「市民後見人養成講座」など福祉の担い手の育成や、福祉のきっかけづくりに向けた取り組みを積極的に行います。

目指す姿

練馬で学んだ人材が地域で活躍する



地域でこんな取り組みが
広がっています

福祉人材の裾野を広げる

● 福祉のやりがいや楽しさを伝える ～ねりま社会福祉法人等のネット～

石神井地区では、中学生以上を対象に
「"見て" "聞いて" "体験しよう" 福祉の世界」と
題し、保育・児童・高齢・障害の施設職員が福祉
のやりがいや楽しさ、役割について、現場の声を
伝える取り組みを行っています。

「ボランティアをしてみたい」という参加者も
いて、福祉に興味を持ってもらうきっかけづくり
になっています。



「"見て" "聞いて" "体験しよう" 福祉の世界」の様子



● 実習生の受け入れ体制強化 ～区内の事業所～

区内の事業所の実習生受け入れ担当
者同士が、実習教育の最新動向を学
び、受け入れ状況等について情報交換
をしています。実習生が他の事業所に
についても学びたいという希望があれ
ば、説明や見学等の時間を設けて対応
するなど、二次実習につながるような
取り組みを
更に進めます。



資格者実習
受け入れの1コマ

● 退職後は生きがいとなるような社会貢献を ～市民後見人～

定年退職後、社会との接点を持てる活動として地域で何か役立ちたいとの思いから市民後見人養成研修に参加しました。これまで、福祉関係の仕事や活動に縁はなかったのですが、社会福祉や権利擁護の考え方を学んだ後、市民後見人として受任しました。「明るく、楽天的に、前向きに」を心掛け、その方と良い関係を築き、安心して信頼されるような人を目指して活動しています。わずかでも誰かの役に立っていると感じられる気持ちが、自分自身を支える力、生きる力につながっています。



市民後見人 本間さん

● 傾聴ボランティアで地域の力に ～こだまの会～

高齢者の孤独を少しでも癒し、社会とのつながりを維持して、住み慣れた練馬でおだやかに暮らしていけるお手伝いをしたいとの志で活動しています。ロールプレイングを中心とした「傾聴ボランティア養成講座」を受講後に活動を始めます。傾聴では「自分をよく知ること、相手に寄り添うこと」が大切で、安心して活動できるよう、スーパーバイザーがサポートしています。最近では30代の方や在住外国人の申し込みもあり、福祉に興味関心がある人が増えてきていると感じています。活動を通して、人生の先輩からお話を伺えることは貴重な経験になっています。



代表 篠さん



事務 小高さん